

令和2年度 高等学校OPENプロジェクト実施報告書(3年次)

研究指定校	北海道留萌高等学校	教育局	留萌教育局
-------	-----------	-----	-------

1 研究主題	
ビジネスの手法・ものづくりの技術を用いた地域課題の解決 ～関係人口の増加、継続的なふるさととの結び付きを目指して～	
2 研究実践内容	
月	実施内容
4月	・民間支援組織及び市役所との連携や、校内支援体制の構築に向けて準備を開始した。
6月	・地域みらい連携会構成員7名が、第1回地域みらい連携会議の中で、事業の趣旨、これまでの取組報告及び実施計画についての確認を行った。 ・情報ビジネス科及び電子・建築科の生徒が、これまでのOPENプロジェクトの活動をまとめ、全校生徒及び地域発信するポスター作成した。
7月	・第3学年情報ビジネス科の生徒が、全校生徒に対して地域資源に関するアンケートを実施した。 ・第3学年電気・建築科建築コース「文字モニュメント」制作生徒3名が、留萌市、留萌振興局等の関係者と意見交流会を実施した。 ※ 4月から7月までに計画されていた第1回～第4回ワークショップ及び学校祭については、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点より中止とした。
8月	・第3学年情報ビジネス科の生徒が、関係人口増加調査を実施し、アンケート等結果を分析した。
9月	・第3年次普通科の生徒有志が、留萌の産業と魅力についてのプロモーションビデオを作成した。
10月	・商業研究会の生徒が、るしんふれ愛パークにおいて、第5回ワークショップ「学びデイズ」を行った。 ・地域みらい連携会構成員6名が、第2回地域みらい連携会議において、計画実施状況についての経過等の確認をした。 ・第3年次普通科生徒1名が、北海道ふるさと・みらい創生推進事業「全道ミーティング」に参加し、実践発表を行った。
12月	・第1学年情報ビジネス科の生徒が、第6回ワークショップ「プロジェクトマップ作成・投影」を行った。 ※ 体験型イベント「キッズビジネスタウン」については、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点より中止とした。
1月	・第1学年情報ビジネス科の生徒が、第7回ワークショップ「プロジェクトマップ作成・投影」を行った。 ・3年電気・建築科18名、情報ビジネス科25名が、課題研究において課題研究発表会を実施した。 ・地域みらい連携会構成員6名が、第3回地域みらい連携会議において、実施計画の取組報告、総括を行った。 ・第2学年情報ビジネス科の生徒が、第8回ワークショップ「キャリア学習発表会」を行った。

3 地域みらい連携会議の開催内容	
第 1 回	令和 2 年 6 月 15 日 (月) 13 : 30 ~ 14 : 30
出席者	仲田委員、海東委員、吉田委員、山中委員、高井委員、大嶋委員、本山委員
協議内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の趣旨、実施計画の確認 ・ 「かずもちゃん焼き」開発・販売、留萌管内産保育間伐材を活用したものづくり（「避難所用多機能家具」「かずもネット」）等の取組報告
指導・助言を受けた内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校生が何をしたいかを収集し、可能な支援をしたいと考えているため、生徒と意見交換する機会を設けてほしい。 ・ 今後、教科横断的な活動、他校との連携、持続的な活動をしていく必要がある。
第 2 回	令和 2 年 10 月 12 日 (月) 13 : 30 ~ 14 : 15
出席者	仲田委員、海東委員、吉田委員、高井委員、大嶋委員、本山委員
協議内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画実施状況についての経過報告
指導・助言を受けた内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7 月に実施した意見交流会のように、関係機関と生徒がやりとりをし、実際の運営に向けてシビアな視点で考える機会が今後でも設定するとよい。
第 3 回	令和 3 年 1 月 19 日 (火) 13 : 30 ~ 14 : 30
出席者	仲田委員、海東委員、吉田委員、高井委員、大嶋委員、本山委員
協議内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施計画の取組報告、総括
指導・助言を受けた内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の P R 等も含め、成果物を活用する支援体制の整備等、生徒の豊かな発想に対して今後も応援していきたい。 ・ 3 年間程度継続して深める活動ができるとよい。

4 研究の成果と課題

(1) 目的の達成状況

- 地域活性化を目指す活動ネットワークについては、この3年間の活動により、つながりとともに連帯感をより一層強めることができた。
- 生徒は、地域に貢献するため主体的に企画し、関係機関との意見交流会等を通して視野を広げることができた。また、培った技術を生かした製作物を留萌市に寄贈するなど、社会的・職業的自立に向けて必要な資質・能力を育成することができた。

(2) 目標の達成状況

- 就職志望者については、留萌管内を希望する割合が52%から54%になるなど、生徒の地元への関心は高まった。
- 学校評価における保護者による評価の「本校は生徒や保護者の希望、地域の期待に応える教育活動を展開している」の項目においては、「十分できている」「概ね十分である」の回答が83%と向上した。
- 活動を重ねることで生徒と関わる人が増え、地域の魅力を伝える機会を創出できたことから、今後も関係人口を増やすことは可能と考えられる。

(3) 実践研究の規模

- 今年度から開設した普通科3年次の選択授業「ふるさと創生学」では、地元企業や市役所等から講師を招き、地域についての理解を深めることができた。
- 商業研究会が制作したキャラクター「るもっぺーず」については、イラスト及び漫画の掲載（日刊留萌や広報るもい）やSNS等を活用し、活動を広く発信した。
- 情報ビジネス科及び電気・建築科3年生の「課題研究」においては、年度当初の休校の影響を受けたが、計画・研究・まとめを行った上で、課題研究発表会を実施することができた。
- 新型コロナウイルスの影響のため、当初計画していた授業や行事が実施できず、保護者や地域から例年期待されている形で応えることができないものがあった。

(4) 研究成果の普及

- 学校ウェブページやSNS等を利用し、取組を随時発信することができた。
- 校内研究発表会（1月）に至るまで、新聞各社の協力のもと、研究内容や成果を広く地域に報告し続けることができた。

(5) 実践研究内容

- キャリア教育の全体計画に基づき、情報ビジネス科「課題研究」、電気・建築科「課題研究」、普通科「ふるさと創生学」及び「総合的な探究の時間」を柱に、生徒が地域を知り、どのように貢献していくかを考えるとともに、協働して地域の課題に取り組むことができた。

(6) 地域みらい連携会議

- 地元企業や観光協会、官公庁等様々な立場の方が参加することで、多くの助言と支援をいただくことができた。また、生徒のアイディアに期待を寄せ、具現化に力を注ぐ体制を構築することができた。

5 プロジェクトの達成状況	
(1) 【評価の観点】 本道の基幹産業を支える人材や、地域を守り支えていく人材の育成について	
<p>(評価) 一部の生徒に対しては、本道の基幹産業や地域を支える人材の育成につながる取組となった。</p> <p>-----</p> <p>(評価した理由) 当初計画していた全校生徒での取組は、新型コロナウイルスの影響が大きく、実施できなかった。</p>	
(2) 【評価の観点】 地域の自治体や企業、産業界等の関係機関との協働について	
<p>(評価) 地域の自治体や企業、産業界等の関係機関と協働した取組を実施し、成果や課題を共有している。</p> <p>-----</p> <p>(評価した理由) 市役所をはじめとする関係機関との意見交流会を実施し、成果物（「文字モニュメント」）を寄贈するなど、協力体制が整っている。</p>	
(3) 【評価の観点】 生徒の主体性について	
<p>(評価) 生徒は、地域社会の一員としての主体性を持って取り組むことができている。</p> <p>-----</p> <p>(理由) 自分たちの地域の良さを探究し、豊かな発想のもと自分たちの住んでいる地域をより良くするために、どのような取組ができるかを考えることができている。</p>	
(4) 【評価の観点】 地域課題の解決状況について	
<p>(評価) 取組により、地域課題の解決につなげることができた。</p> <p>-----</p> <p>(理由) イベントの多くは中止となったが、ビジネスの手法と、ものづくりの技術を生かし、地域の魅力を発信することができた。また、地域の方が高校生の活動を期待し、応援してくださっており、今後も生徒の郷土愛を醸成し、観光及び居住環境等、様々な観点から取組を続けていきたい。</p>	
6 今後の取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・民間支援組織「留萌の未来を支える人材育成会議」、市役所・振興局、本校卒業生及び地元の皆様などに協力していただいた様々な活動については、引き続き地域の方々とのつながりを大切にし、高校生が地域を知り、どのように貢献できるか考え、形にしていく活動として継続したい。 ・研究終了後においても、活動の継続に向けてこれまでの成果を踏まえ、本校の取組「るるもっぺOPENプロジェクト」の改善充実に向けて検討を行っている。 	

7 参考資料

(1) これまでの活動の様子（多岐にわたる活動の経緯や過程等の発信）



令和2年4月より、留萌振興局1階道民ホール、留萌市役所、校内掲示板、学校ホームページにて、留萌管内の高等学校及び小平高等養護学校の制作物等の展示や、「情報ビジネス科による商品開発」、「電気・建築科によるものづくり」等、「OPENプロジェクト」の活動実績も含めた各校の特色ある活動を紹介している。

(2) コロナ禍での活動の様子



「関係人口の増加」について、各種イベントや祭り等で販売したかずもちちゃん焼きの販売数を用いて考察し、10月27日（火）に実施したOPENプロジェクト「全道ミーティング」で発表した。

(3) 「留萌PR動画」撮影の様子



普通科有志や写真部によって「留萌PR動画」おすすめスイーツ編と留萌南部風景編を作成し、おすすめスイーツ編については1月21日（木）に実施した「Uターン促進事業講演会」にて、管内6高校の2年・年次生に公開した。

(4) 「北海道新聞（令和2年12月12日）」



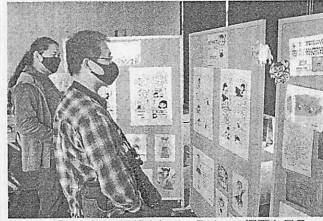
12月11日（金）、電気・建築科3名が計画し、意見交流会（7月）で決定した留萌管内産保育間伐材を使用した観光客向けモニュメント「RUMOI I」が完成し、留萌市へ寄贈するお披露目式が行われた。

(4) 「日刊留萌（令和2年10月13日）」



かずもちゃん焼きを買った来場者

かずもちゃん焼き販売
クイズや漫画も楽しむ
留萌高校留萌の魅力伝える
留萌高校留萌の魅力伝える
留萌高校留萌の魅力伝える



日刊留萌新聞に掲載されている4コマ漫画を見る
来場者

留萌の魅力を生かして伝えた。イベント中は新型コロナウイルス感染症防止などを目的に、同校の教員がクイズコーナーや「かずもちゃん焼き」の販売、オリジナルキャラクター「るるもっぺーず」の紹介を行った。オリジナルキャラクターの紹介では、3人の擬人化した萌えキャラのイラストや日刊留萌に10月限定で連載した4コマ漫画、高さ1メートルのパネル3体を展示した。また、留萌おみやげ処お勝手屋萌道の駅店で販売している「るるもっぺーず」缶バッジを、限定デザインを加えて1個 100円で販売した。

10月10日（土）11日（日）、商業研究会が「学びデイズ」をるしんふれ愛パークにて行い、クイズコーナーや「かずもちゃん焼き」の販売、オリジナルキャラクター「るるもっぺーず」の紹介を行った。

オリジナルキャラクターの紹介では、3人の擬人化した萌えキャラのイラストや日刊留萌に10月限定で連載した4コマ漫画、高さ1メートルのパネル3体を展示した。

また、留萌おみやげ処お勝手屋萌道の駅店で販売している「るるもっぺーず」缶バッジを、限定デザインを加えて1個 100円で販売した。